

短命県返上へ地域で健康づくり



弘大が文科大臣賞

イノベーションアワード

地域の特性を生かして地域振興・活性化を目指す取り組みを表彰する「イノベーションアワード2020（地域産業支援プログラム表彰事業）」の文部科学大臣賞に、弘前大学の健康づくりプロジェクトが選ばれた。生活習慣病や認知症を早期発見・予防する同大の取り組みが高く評価された。同大担当者は「地域全体が連携した健康寿命延伸の活動が全国で注目されている」と話した。

（菊谷賢）

9回目となる同アワードは全国イノベーション推進機関ネットワークが主催。弘大は「健康ビッグデータをハブに産学官金民の強固な連携で新産業創出を目指す寿命革命プロジェクト」の事業名で受賞した。

同大は2005年から毎年、岩木地区で「健康増進プロジェクト」を実施している。住民約千人を対象に2弘前市岩木地区の大規模健診。本県の健康寿命延伸を目指すし、医療関係者、ボランティア、企業関係者らが連携して健康データ集積に取り組む。2016年6月

千項目にわたる健康データを収集・分析。約60の企業・団体が、生活習慣病予防の取り組みや健康施策の立案、ヘルスケア商品開発に取り組んでいる。13年には、弘大COIとして文科省の補助事業に採択された。弘大COIの中路重之視

点長は「短命県返上という目標に向かって、大学を含め地域全体が力を合わせ、地方創生に取り組んでいることが評価された。県民全体が受けた賞と言える。受賞を大きな励みとして、地域を元気にする活動を続けたい」と述べた。

弘大COIは18年度、内閣府などが主催する「第1回日本オープンイノベーション大賞」を受賞。19年度は地域課題の解決へ向けた画期的な方策を表彰する「プラチナ大賞」の総務大臣賞を受賞している。イノベーションネットアワード関係では13年、機能性素材「プロテオグリカン」を活用して、産学官が連携して商品化に結びつけた県産業技術センターなどの「未利用資源活用型ヘルス&ビューティ産業クラスター創生支援プログラム」が文部科学大臣賞を受賞している。